

臨床工学科

臨床工学科 主任臨床工学技士 田野史晃

1 部門目標

- ・医療機器保守点検の拡充
- ・生命維持管理装置の操作における安全性の確立

2 業務体制・スタッフ

【スタッフ】令和4年4月時点で1名新規採用となり7名体制（1名休職）、9月での人事異動により1名集中治療科へ異動、6名体制（1名休職）となった。

【臨床支援業務体制】

以下の業務に関して医師の指示の下、検査・治療を行っている。

- ・人工心肺業務（成人・小児）
- ・集中治療業務（補助循環装置、血液浄化装置、人工呼吸器の操作・保守・点検）
- ・心血管カテーテル検査・治療業務（成人・小児）
- ・ペースメーカー業務（外来チェック・植込み時チェック）
- ・ER業務（患者受け入れ業務支援、METチーム対応、転院搬送業務）

夜間・休日の緊急時に関しては24時間365日院外待機にて対応、呼び出し後は医師の指示に従い臨床治療に参画している。また心臓血管外科手術を行った当日は、手術患者の急変に備え臨床工学技士による当直、あるいは夜勤体制を行っている（令和4年度9月に一時取りやめ）

【後方支援業務体制】

院内で使用する医療機器の中央管理、生命維持管理装置等の点検を行い、使用時における機器のトラブルの低減に努めている。

3 業務実績

◇臨床支援業務実績

症例件数

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
CPB		20	36	42
IABP		10	6	18
ECMO		7	6	7
PMI,PME _x		42	45	53
PM外来		556	432	544
血液浄化	CHDF	11	18	30
	HD	0	0	1
CART		2	11	7
ER受け入れ業務支援		698	1421	1166
MET対応			53	67
救急車搬送同乗		1	6	12

◇後方支援業務実績

医療機器点検件数

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
点検件数	輸液ポンプ	5929	6025	5979
	シリンジポンプ	2717	2991	3389
	経腸栄養ポンプ	60	81	82
	送信機	140	2321	2493
	保育器	79	477	427

4 1年間の総括

- ・1名異動したことで年度後半では6名（1名休職）体制にて業務を行っており、マンパワー不足から日勤帯業務の現状維持を最優先とした。そのため令和4年9月より心臓血管外科手術を行った当日の当直、あるいは夜勤体制を一時取りやめている。
- ・令和4年度6月より病院採用の救急救命士が1名救急科に配属され、病院救急車を用いての転院搬送を行うようになった。これにより臨床工学技士も同乗する機会が増え、令和4年度では12件の搬送同乗業務を行っている。

5 今後の目標

【医療安全体制の構築】

- ・各業務内容のマニュアル化

業務マニュアル・チェックリストが無い業務、あっても更新されていない業務に関して、更新・改定を逐一行っていき科内の標準化に努める。

- ・院内スタッフに向けての医療機器勉強会の積極的な開催

院内スタッフからの勉強会開催の要望はもちろん、こちらからそれぞれ業務にあった勉強会の提案を行っていく。

【業務範囲の拡大】

- ・新生児集中治療室（NICU）へ臨床工学技士の配置を行い、業務を確立していく。
- ・脳外科が令和5年5月より開始、立ち上げに際し当科もサポートを行っていく。
- ・令和5年9月に集中治療管理料加算3を取得予定であるため、集中治療医、ICU看護師らと共にICUの充実化を図る。
- ・増員に関して治療管理料加算1取得に向けての人員確保であるため、段階的に当直、あるいは夜勤体制を構築していく。